

平成 25 年 4 月 30 日	病害虫発生予報 5 月号	茨城県病害虫防除所 茨城県植物防疫協会
---------------------	-------------------------------	------------------------

水田の農作業が始まります。水田で農薬を使用した時は、
散布後一週間はかけ流しや落水をしないようにしましょう。

＜ 目 次 ＞

I. 今月の予報	
【注意すべき病害虫】	
小麦：赤かび病	1
【防除所レポート】 ：赤かび病菌の子のう胞子の飛散好適日と発病穂率	1
ナシ：黒星病	2
【防除所レポート】 ：ナシ黒星病菌の子のう胞子の飛散状況	2
ナシ：ナシヒメシクイ	3
促成・半促成ピーマン：うどんこ病	3
促成・半促成ピーマン：アザミウマ類	4
トマト黄化葉巻病	4
【その他の病害虫】	5
水稻，半促成ピーマン，促成キュウリ，メロン	
【防除所レポート】 ：病害虫発生予報の見方について	6
II. 今月の気象予報	8

本文に記載されている薬剤は平成 25 年 4 月 24 日現在のものです。
最新の農薬登録内容は、(独) 農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm) で確認することができます。

詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。
茨城県病害虫防除所 Tel :029-227-2445
予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。
ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>
フェロモントラップデータ随時更新中

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

小麦

1. 赤かび病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並	県下全域

[予報の根拠]

- ① 気象予報によると、向こう1か月の降水量は平年並と予想されている。

[防除上注意すべき事項]

- ① 小麦の防除適期は開花期である。播種時期によって防除適期が異なるので、圃場ごとの生育状況をよく確認し、適期に必ず薬剤散布を行う。
- ② 開花期以降に赤かび病菌の子のう胞子の飛散好適日(最高気温 15℃以上かつ最低気温 10℃以上で、湿度 80%以上の日あるいは降雨日とその翌日)が多い場合は、1回目の薬剤散布 7~10日後に2回目の散布を行う(防除所レポート参照)。2回目の散布を実施する際は、薬剤耐性菌の発生を防ぐため、系統の異なる薬剤を散布する。

防除所レポート [赤かび病菌の子のう胞子の飛散好適日と発病穂率]

小麦では、開花期から10日程度が赤かび病菌に最も感染しやすい。この感染好適期間に子のう胞子の飛散好適日の出現回数が多いと、発病穂率が増加する傾向にある(図)。

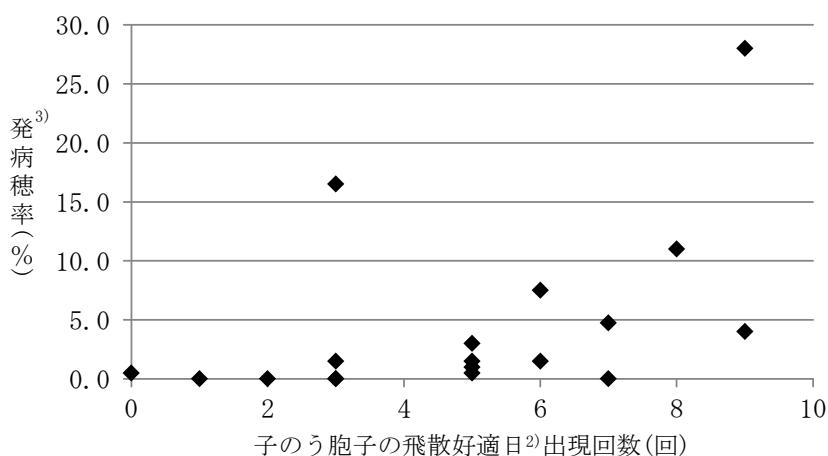


図 小麦(農林61号)の開花期後10日間¹⁾における赤かび病の子のう胞子の飛散好適日出現回数と赤かび病発病穂率(県予察圃(水戸市))

1) 出穂期後7~16日

2) 最高気温15℃以上かつ最低気温10℃以上で、湿度80%以上の日あるいは降雨日とその翌日

3) 平成7年~24年の5月下旬または6月上旬の調査値

ナシ

1. 黒星病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 4月下旬現在、発病果そう率（本年値 0.1%， 平年値 0.3%）， 発生地点率（本年値 19%， 平年値 22%）ともに平年並である。
- ② 昨年10月下旬の調査で、秋型病斑の発生は平年より多かったため、菌の越冬量も平年より多いと予想される。

[防除上注意すべき事項]

- ① 果そう基部の病斑は葉や果実への伝染源となるため、見つけ次第除去し、園外に持ち出して適切に処分する。
- ② 薬剤防除は、圃場をよく観察し、適期に確実に実施する。平成25年版赤ナシ無袋栽培病害虫参考防除例等に従って薬剤散布する場合は、ナシの生育に合わせて散布時期を早める。
- ③ 薬剤散布後まもなく強い雨が降り、降水量が多くなった場合は、薬剤が流亡することがあるので、速やかに追加散布を行う。
- ④ 薬剤は、10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等、薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。

防除所レポート [ナシ黒星病菌の子のう胞子の飛散状況]

- ① 笠間市における子のう胞子の初飛散は、3月25日に確認された（図）。
- ② 子のう胞子の飛散量は降雨があると増加した。
- ③ 子のう胞子の飛散量が多い日は、ナシ黒星病に感染しやすい。薬剤散布の間隔が空いた園では、今後、幼果や葉で発生する可能性があるため、圃場をよく観察し、黒星病の早期発見に努める。

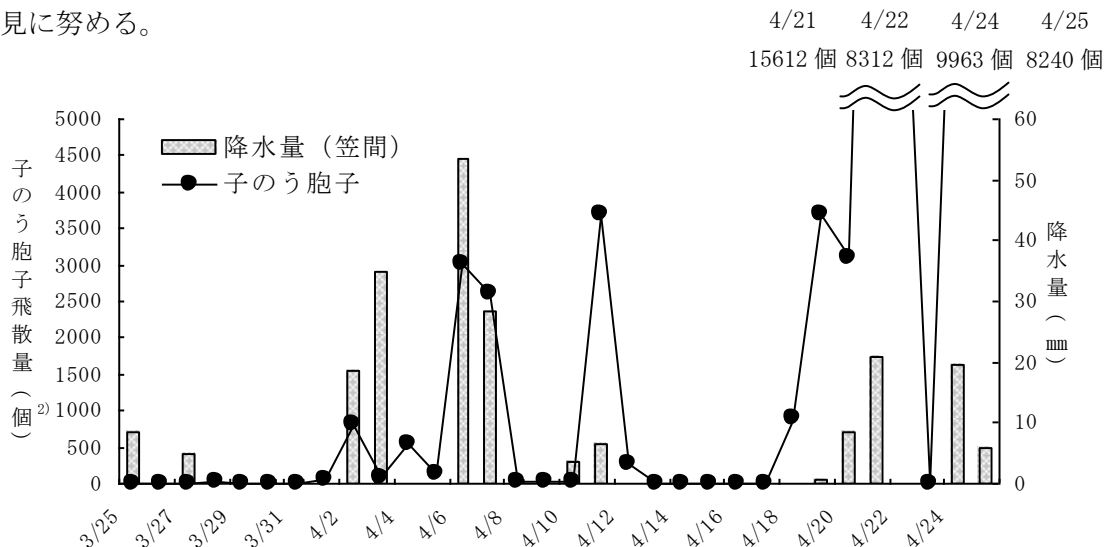


図 ナシ黒星病菌の子のう胞子の飛散数¹⁾と降水量（笠間市）

1) 農業総合センター園芸研究所調べ

2) 子のう胞子トラップに捕捉された胞子数

(ナシ 続き)

2. ナシヒメシンクイ (越冬世代～第一世代)

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
早い	平年並	県下全域

[予報の根拠]

- ① 4月下旬現在、フェロモントラップへの誘殺時期は平年より早く、誘殺数は平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① コンフューザーNを使用する場合は、第一世代以降の成虫を対象に5月中旬までに150～200本/10a設置する。
- ② 薬剤は、10a当たり300リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等、薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。

促成・半促成ピーマン

1. うどんこ病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 4月下旬現在、促成ピーマンにおける発病度* (本年値 21.0, 平年値 5.1) は平年より高く、発生地点率は平年並である。
- ② 4月下旬現在、半促成ピーマンにおける発病度* (本年値 4.6, 平年値 2.6), 発生地点率ともに平年よりやや高い。
- ※発病度：病斑等をもとに算出した発病の程度を表す数値、最小値は0で最大値は100となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発生が多くなると防除が困難になるため、発生が少ないうちに防除を徹底する。
- ② 罹病葉は新たな伝染源となるため、できるだけ取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ③ 薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤耐性菌の発生を防ぐため、系統の異なる薬剤を散布する。
- ④ 天敵を導入しているハウスで薬剤防除をする場合、天敵への影響に十分注意する。

(促成・半促成ピーマン 続き)

2. アザミウマ類

[予報内容]

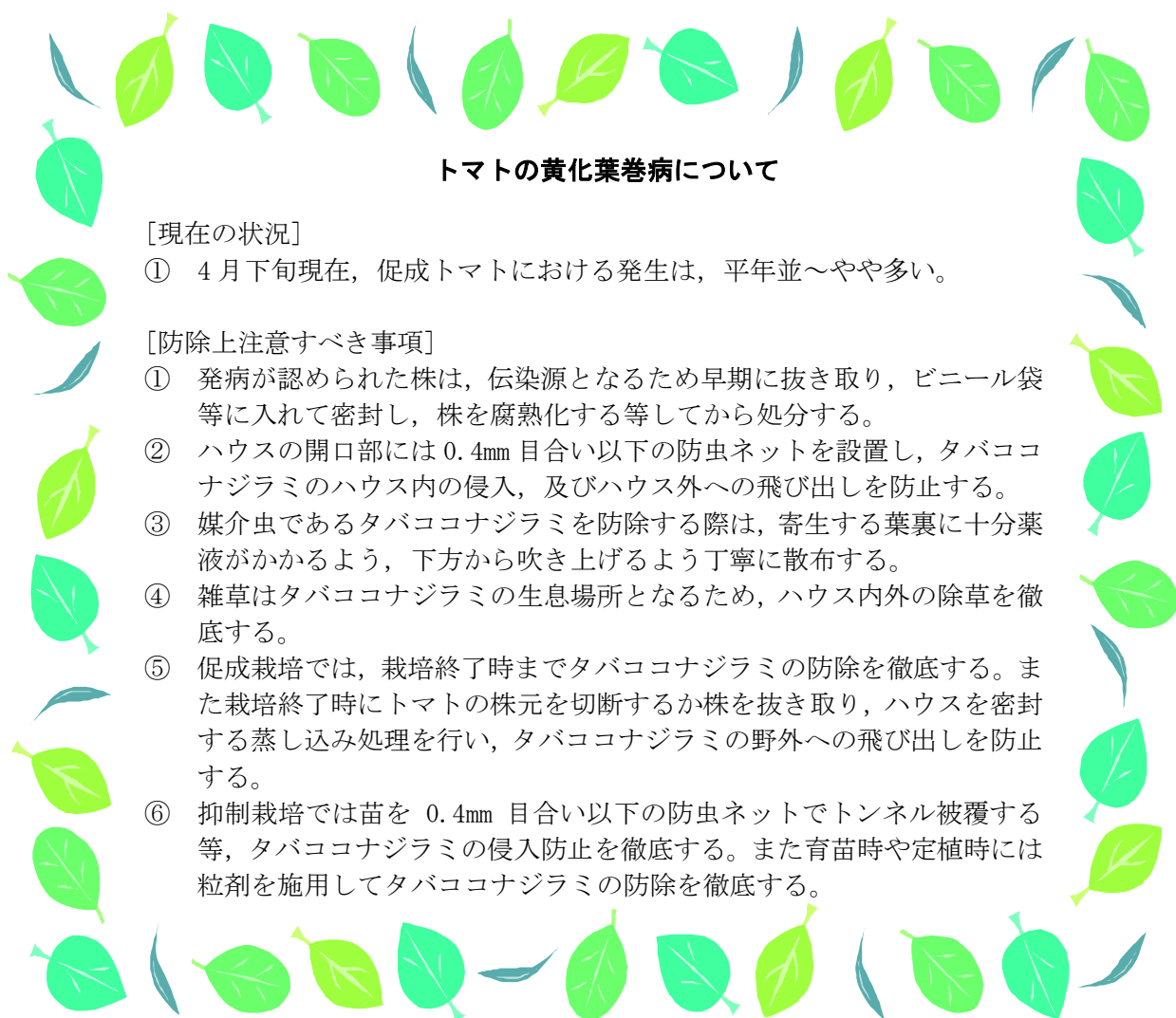
発生時期	発生量	発生地域
—	多い (半促成ピーマン)	鹿行地域
	やや多い (促成ピーマン)	

[予報の根拠]

- ① 4月下旬現在, 半促成ピーマンにおける寄生花率 (本年値 63.0%, 平年値 31.0%), 発生地点率ともに平年より高い。
- ② 4月下旬現在, 促成ピーマンにおける寄生花率 (本年値 41.0%, 平年値 32.3%), 発生地点率ともに平年よりやや高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① アザミウマ類は増殖が速く, 各種ウイルス病を媒介するので, 発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤は, 薬液が葉裏や花にもかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また, 薬剤抵抗性の発達を抑えるため, 系統の異なる薬剤を散布する。
- ③ 天敵を導入しているハウスで薬剤防除をする場合, 天敵への影響に十分注意する。



トマトの黄化葉巻病について

[現在の状況]

- ① 4月下旬現在, 促成トマトにおける発生は, 平年並~やや多い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発病が認められた株は, 伝染源となるため早期に抜き取り, ビニール袋等に入れて密封し, 株を腐熟化する等してから処分する。
- ② ハウスの開口部には 0.4mm 目合い以下の防虫ネットを設置し, タバココナジラミのハウス内の侵入, 及びハウス外への飛び出しを防止する。
- ③ 媒介虫であるタバココナジラミを防除する際は, 寄生する葉裏に十分薬液がかかるよう, 下方から吹き上げるよう丁寧に散布する。
- ④ 雑草はタバココナジラミの生息場所となるため, ハウス内外の除草を徹底する。
- ⑤ 促成栽培では, 栽培終了時までタバココナジラミの防除を徹底する。また栽培終了時にトマトの株元を切断するか株を抜き取り, ハウスを密封する蒸し込み処理を行い, タバココナジラミの野外への飛び出しを防止する。
- ⑥ 抑制栽培では苗を 0.4mm 目合い以下の防虫ネットでトンネル被覆する等, タバココナジラミの侵入防止を徹底する。また育苗時や定植時には粒剤を施用してタバココナジラミの防除を徹底する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
水稲	イネミズゾウムシ	発生時期: 平年並 ～やや早い 発生量: ー	4月下旬現在, 本田での生息数が最高に達する時期は, 県南・県西地域では5月中旬頃, 県北・県央・鹿行地域で5月下旬～6月上旬と予想される。
ピーマン 促成	斑点病	発生量: やや多い	4月下旬現在, 平年よりやや多い発生である。
促成 キュウリ	うどんこ病	発生量: やや多い ～多い	4月下旬現在, 平年よりやや多い～多い発生である。
	べと病	発生量: やや多い ～多い	4月下旬現在, 平年よりやや多い～多い発生である。
	ハダニ類	発生量: やや多い ～多い	4月下旬現在, 平年よりやや多い～多い発生である。
	ミナミキイロ アザミウマ	発生量: 平年並 ～やや多い	4月下旬現在, 平年並～やや多い発生である。本種は黄化えそ病を媒介するので注意する。
メロン	つる枯病	発生量: 多い	4月下旬現在, 平年より多い発生である。収穫前日数に注意して防除を行う。
	菌核病	発生量: やや多い	4月下旬現在, 平年よりやや多い発生である。収穫前日数に注意して防除を行う。
	べと病	発生量: 平年並 ～やや多い	4月下旬現在, 平年並～やや多い発生である。収穫前日数に注意して防除を行う。
	ハダニ類	発生量: 多い	4月下旬現在, 平年より多い発生である。収穫前日数に注意して防除を行う。
	アザミウマ類	発生量: やや多い	4月下旬現在, 平年よりやや多い発生である。収穫後は, 蒸し込み処理等, 適切な防除を行う。

病害虫発生予報の見方について

病害虫防除所では、向こう1か月の病害虫の発生を予測した病害虫発生予報を毎月発表しています。予報の作成にあたっては、圃場巡回調査や病害虫防除員の情報等による現地における病害虫の発生状況、フェロモントラップ等による害虫の発生状況を過去のデータと比較しながら、向こう1か月の気象予報等を参考にして作成します。ここでは予報をご理解いただくために、予報の見方について説明しますので参考にして下さい。

1. 予報の構成

予報は、向こう1か月の間に多発生が懸念され警戒すべき病害虫や、例年その月に発生が問題となる病害虫について記載した「注意すべき病害虫」と、「注意すべき病害虫」ほどではないが、例年より発生が多い等注意を要する病害虫を記載した「その他の病害虫」で構成されます。その他に、調査結果等について解説等を記載した「防除所レポート」を掲載する場合があります。

○注意すべき病害虫

イチゴ

予報の対象地域

1. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
やや早い	多い	県下全域

向こう1か月間の発生予報を、発生時期と発生量の「平年値」との対比により予報します。発生時期は、平年より「早い(6日以上)」、「やや早い(3~5日)」、「平年並」、「やや遅い(3~5日)」、「遅い(6日以上)」の5段階で判断しています。発生量は、「多い」、「やや多い」、「平年並」、「やや少ない」、「少ない」の5段階で表記し、過去10年の発生程度と今年度のデータを比較し、順位付けした上で判断しています。発生時期や発生量を特定しない場合は、「-」で表記します。

[予報の根拠]

- ① ○月下旬現在、被害葉率、発生地点率ともに平年より高い。
- ② 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高いと予想され、発生を助長する条件である。

予報を推定した根拠を記載します。圃場巡回調査やフェロモントラップ等への誘殺状況等に基づく現在の発生状況、予想される気象条件が対象病害虫に及ぼす影響等について記載しています。

[防除上注意すべき事項]

防除を行う際に、注意すべき事項等について簡潔に記載しています。

- ① ハダニ類は増殖が速いので、発生が少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤防除の際は、薬剤が葉裏や葉柄にも届くよう、十分な量を丁寧に散布する。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、気門封鎖剤を除き同一薬剤の連用を避ける。

病害虫発生予報の見方について(続き)

○その他の病害虫

主に発生量に基づいた発生予測について記載します。発生量や発生時期については、注意すべき病害虫と同様に各5段階で表記します。

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
促成ピーマン	斑点病	発生量：やや多い	○月下旬現在，平年よりやや多い発生である。

現在の発生状況等を中心に記載します。その他、特記事項や防除対策について簡潔に記載する場合があります。

2. 予報等に記載される用語について

病害虫防除所が発表する予報等の病害虫に関する情報では、いくつか特徴的な用語を使用しています。ここではそれらのうち、主に記載される用語について簡単に解説します。

- **発病度，被害度**

調査圃場における対象病害虫の発生状況等を客観的に把握するため、調査株を被害程度別に区分・集計して数値化したもので最小値は0で最大値は100となります。

- **発生地点率**

当所の圃場巡回調査で、対象病害虫の発生や被害が見られた圃場の割合です。

- **平年値**

過去10年間の調査データの平均値。気象データの場合は、過去30年間の平均値。

- **フェロモントラップ**

主に性フェロモンを誘引源として、対象害虫を誘殺する装置です。対象害虫の発生状況を把握するために利用しています。

- **予察灯**

夜間に電球を点灯し、光に集まる虫を毎日誘殺する装置です。害虫の発生状況を把握するために利用しています。

- **県予察圃**

農業総合センター農業研究所と園芸研究所に設置している圃場です。無防除圃場等における病害虫の発生状況を調査しています。

II. 今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 4月27日から5月26日)

気象庁 (4月26日 発表)

<向こう 1 か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率 (%) >

[確率]	要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い (多い)
	気温	関東甲信全域	40	40	20
	降水量	関東甲信全域	30	40	30
	日照時間	関東甲信全域	30	40	30

[概要]

天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

<1週目の予報> 4月27日(土曜日)から5月3日(金曜日)

気温 関東甲信地方 低い確率 60%

<2週目の予報> 5月4日(土曜日)から5月10日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率 40%

<3週目から4週目の予報> 5月11日(土曜日)から5月24日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率 40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず、良く洗浄しましょう。

平成26年度茨城県立農業大学校学生募集

専修学校であり大学への編入学の受験資格が得られます。

■ 募集人員等

区分	学 科 名	募集人員	受験資格	修業年限	専 攻 コ ー ス
学 科	農 学 科	40名	高校等を卒業した者又は平成26年3月に卒業若しくは修了見込みの者	2年	普通作・露地野菜・果樹
	畜 産 学 科	10		2年	
	園 芸 学 科	30		2年	施設野菜・花き
研 究 科		10	農業大学校卒又は短大等卒以上若しくは卒業見込みの者	2年	作物・園芸・畜産

■ 願書受付・入学試験

試験区分	願 書 受 付 期 間	試 験 日	選 抜 方 法
推薦入試 (各学科)	平成25年10月1日(火)～10月16日(水)	平成25年10月25日(金)	小論文 口述試験 (個別面接)
一 般 入 試 (各学科)	前期 平成25年12月11日(水)～1月10日(金)	平成26年2月4日(火)	筆記試験 口述試験 (個別面接)
	後期 平成26年2月7日(金)～2月26日(水)	平成26年3月5日(水)	
研 究 科 一般入試	平成25年10月1日(火)～10月16日(水)	平成25年10月25日(金)	筆記試験 口述試験 (個別面接)

■ 授業料等

- ・入学試験手数料(2,200円), 入学料(5,650円), 授業料(年118,800円), 自治会費他
- ・学科1年生は全寮制(1人食費月額約29,000円), 学科2年生及び研究科は希望入寮制

■ 問い合わせ先

〒311-3116

東茨城郡茨城町長岡 4070-186

茨城県立農業大学校

入試事務局

TEL029-292-0010

■ 農大ホームページ <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/nodai/>